

○宇都宮由佳\* 益本仁雄\*\*

(\*大妻女大・院, \*\*大妻女大)

**【目的・方法】** 1997年より、経済化・情報化の進展が、児童・生徒の間食を選択行動に与える影響について、北タイにおける都市部(チェンマイ)、郊外の町(ファーン)、農村部(サムーン)で、アンケート、ヒヤリング等の調査を実施してきた。その結果、地域差があることが分かり、さらにその差には5つのパターンがあることが判明した。1998年、地域差が顕著な間食からファーストフード、チョコレート、ほとんど地域差の見られなかった間食からタイおやつ、即席麺を選び、小5、中2、高2(合計937人)を対象に、より詳細な調査を行った。1999年、文献調査、環境観察、現地関係機関でのデータ収集、ヒヤリング調査等を行い、SPSSを使用して、地域差の要因について、検定、相関、因子分析等の方法で分析した。

**【結果・考察】** ファーストフード、チョコレートの選択は、各地域でマスコミなどを通じた情報の影響が強い。しかし、ファーン、サムーンでは、憧れがあるものの、値段の高さや販売店の有無など経済的影響も強い。チェンマイでは、太ることを気にして摂取を控えるという社会・文化的要因が見られた。タイおやつ、即席麺は、各地域で手軽に購入できる、価格が安いなどの経済的要因の影響が強く、ファーン、サムーンでは、さらに家で作るなど社会・文化的要因も加わり、摂取頻度が高い。チェンマイは、他の2地域と比較して、摂取頻度も低く、伝統を守る意識がうすれつつあることがわかった。3地域における間食選択行動は、経済的要因を基底としつつ、情動的要因と社会・文化的要因とが複雑に絡み合っていることが明らかとなった。